

ケースフォーミュレーションシート

環境要因

【家族】
・妻・子2人
・家族の理解・サポートは良好。

【地域生活】

【その他】

【職場】
・事業所は雇用継続を前提として考えている。
・身体面に配慮した職場環境の整備が必要。

【サポート機関】
・E病院リハ科(F医師・ST)

【原因となる疾患・外傷など】

脳出血(左被殻)

【支援課題】

【支援方針】

個人要因

【認知面】
●失語症
・コミュニケーションは口頭で実施。
・文字の読み取りは可能。
・PCでの文字入力、キーボードで入力することが難しい。

【感情】
・本人はあまり不安を感じていない。

【その他】
・午後は疲労が溜まってくる。

【身体面】
●右上肢機能障害
・左手に利き手交換、右手は補助種。感覚鈍麻有り。
・PCは左側に機器を配置して、独力で作業可。

【障害認識】
・特性チェックシートでは、「言葉が出づらかったり、言いまちがえをする。」をはじめ多くの失語症の項目で「はい」と回答。

事例情報（情報整理シート）

属性情報	
氏名・年齢	Aさん（5X歳）
事業所名	B事業所
住所	C県D市
家族状況	妻、子供2人（高校生、中学生）
移動手段	公共交通機関利用可 車の運転は不可
支援制度	介護保険
収入状況	傷病手当金
支援課題	
・現在の収入水準を確保したいとの希望	

高次脳機能障害（手帳 なし）	
原因疾患等	脳出血（左被殻）
受傷年月日	20XX年X月
受傷時年齢	5Y歳
検査結果 （医療機関から取得）	TMT-J partA:45秒 RBMT:SPS 23/24 スクリーニング 11/12
症状等	失語症 ごく軽度の注意障害

障害特性 （特性チェックシートおよび、作業場面の観察から把握）	<ul style="list-style-type: none"> ・家族とのコミュニケーションは時間はかかるが主に口頭で行っている。 ・人の名前を言いまちがえてしまうことが多い。 ・文字・文章を読むことは概ね可能。 ・PCの文字入力は、キーボードで入力することが難しい（特に擬音や擬音）。音声入力やアプリケーションの活用経験はない。 ・ワード、エクセルの操作方法を忘れてる。 ・書類の照合、入力内容のチェックなどは、時間がかかるが正確に行うことができる。
------------------------------------	---

支援課題	
<ul style="list-style-type: none"> ・PC入力スキルの回復 ・言語コミュニケーションの対処策の習得 ・事業主に求める配慮の整理 	

生活習慣・健康状態	
生活リズム	<ul style="list-style-type: none"> ・23時頃就寝、7時頃起床。生活リズムは安定しており、ほとんど乱れることはない。 ・毎日30分～1時間ほどの散歩を行っている。 ・ADL自立し、身の回りのことは自分でできている。
食事	
運動	
睡眠	
飲酒・タバコ	
その他	
支援課題	
・特になし	

ストレス・疲労	
ストレス状況	<ul style="list-style-type: none"> ・受傷前に比べて周囲の雑音が気になるようになった。 ・POMSの結果には特に問題は見られない。
ストレスサイン	<ul style="list-style-type: none"> ・午後になると疲れた様子が見られる。 ・時間が長くなると、作業のミスが増加する。
ストレス対処	<ul style="list-style-type: none"> ・以前はドライブが趣味だったが、受傷後はできなくなってしまった。現在は特に趣味はなく、余暇はテレビを見て過ごすことが多くなっている。
支援課題	
<ul style="list-style-type: none"> ・疲労のコントロール ・余暇の過ごし方についての検討 	

その他の症状（手帳 2 級）	
身体の状況	<ul style="list-style-type: none"> 右上下肢機能障害 関節可動域:右 upper limb、右足関節に制限 感覚:右上下肢の表在感覚の重度鈍麻
補装具等	右下肢に短下肢装具を使用
生活習慣病	高血圧、高脂血症
てんかん	なし
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・歩行制限は特になく、散歩では1時間の歩行継続が可能。 ・床の突起や障害物につまづきやすくなっている。 ・感覚鈍麻のために火にかけた鍋に右手が接していても気付かず、火傷してしまうことがあった。 ・右手は補助手レベルで、左手に利き手変換を行っている。時間はかかるが書字は可能。 ・しゃがみこむ動作が難しいため、トイレは洋式トイレが必要。
支援課題	
・本人の身体面に配慮した職場環境の確認が必要	

事業所情報		
休職期限	20YY年Y月	
担当者	総務課長	
復職までの流れ	プログラム終了後、会社に「復職願（会社書式）」と「主治医診断書」を提出。その後、①産業医面談、②人事面談を経て復職が決定。	
休職前の業務	総務事務	
	本人の希望	事業主の意向
復職時期	プログラム終了後、できるだけ早く。	休職期限内であれば本人の意向に合わせる。
勤務時間/日数	できれば最初は短時間勤務が良い。	主治医と産業医の意見に従って決定。
復職部署 復職後の業務	人間関係の良い元部署に復職したい。業務は自分にできる内容であれば何でも良い。	本人にできる業務次第で部署や業務内容、契約条件を検討したい。PC入力ができるれば対応可能な業務が増える。
支援課題		
<ul style="list-style-type: none"> ・本人の身体面に配慮した職場環境の整備 ・対応可能な業務を把握し、職務内容について検討 		

医療情報	
通院先(科・主治医)	E病院リハビリテーション科 F医師
通院頻度	月1回
受診内容	高次脳機能障害に関する経過観察
服薬	降圧剤
現在実施中のリハビリ	ST
過去のリハビリ	OT、PT、ST
支援課題	
・特になし	

サポート体制	
利用中の支援機関	G相談支援事業所
支援内容	相談等
家族関係	送り迎えなどのサポートは妻が行っている。
その他相談相手等	プログラム開始までは、H就労継続支援B型事業所で軽作業を実施していた。
支援課題	
・特になし	